

要約

伐採された森林の再造林を促すため、植林などの作業を少ない費用で行うことができる低コスト森林施業技術を開発しました。

研究成果の概要

1 背景・目的

全国的に木材価格の低迷などにより林業経営の収益性が大幅に悪化していることで、県内の森林は、伐採後の約7割が放置されています。

そこで、伐採後の再造林が適切に行われるよう、少ない費用で植林等ができる技術の開発に取り組みました。

2 内容

- 植付け本数を減らす低密度植栽や機械地拵え（植栽地の整理）、コンテナ苗（容器育苗した根鉢付き苗、写真2）の植栽によって作業を低コスト化できます。
- 下刈りの回数を減らしても、植栽木の初期成長に影響が見られないことが分かりました。
- 「低コスト森林施業モデル」を作成し、普及しています。
- コンテナ苗（スギ・ヒバ）の、県内での効率的な生産方法を確立しました。

3 活用等

本研究で作成した「低コスト森林施業モデル」を適用することで、植林などの森林整備の経費を最大で約50%削減することができます。



写真1 機械による地拵え状況



写真2 コンテナ苗
(スギ)



写真3 コンテナ苗の
植栽状況

機械地拵え - コンテナ苗植栽 - 隔年下刈り - 除間伐なし
(1,000本/ha) (3回/7年)

※従来の一般的な施業モデルから約 50%の費用削減が可能

低コスト森林施業モデルの例

関連情報

- 技術マニュアル「青森県版スギ低コスト施業技術指針」と「青森県版スギ・ヒバコンテナ苗の育苗方法」は、林業研究所ホームページで入手できます。